

# JOSKAS ニュースレター

発行：一般社団法人 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS)

URL: <http://www.joskas.jp/index.html>

〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル (株式会社コンプレ内) TEL: 03-3263-5394 FAX: 03-5216-5552

## ISAKOS Congress 2015 報告



### 世界の舞台で Asia-Pacificの代表として活躍を

ISAKOS Congress 2015 President | 黒坂 昌弘 先生  
(神戸大学大学院医学研究科 外科系講座 整形外科学 教授)

第10回のISAKOS Congressは、3つのPrecourseと本会議をあわせて、2015年6月6日から6月11日までの間、フランスのリヨンで開催されました。

ISAKOSの創立20周年を迎える記念すべき学会の会長を務めさせて頂き、大変光栄であるとともに、責任の重大性を改めて痛感した学会でした。合計で2,348題の抄録の応募があり、厳正なる最低3名の査読員による査読を経て、口頭での発表の採択率は8.8%、e-posterでの採択率は28%と大変高いハードルでの採択率になりました。頑張って発表に漕ぎ着けられた先生方に敬意を表します。学会は4,000名を超える参加者が集い、大盛会のうちに開催されました。今回の学会では、史野根生先生(行岡病院)がhonorary memberに選ばれ、盛大に受賞の表彰式が開催されました。全員懇親会の席でフレンチカンカンやムーランルージュのショウなど、いかにもフランスというムードを楽しまれた先生方も多くおられたと思います。

ISAKOSは毎年会員数が増え、そして世界の関節鏡、膝、スポーツ医学を専門とする先生方の集いの場になっています。多くの学会賞などが設けられており、その選抜も非常に厳正なcommitteeでの決定で行われるようになりました。世界中には、異なる背景を持つ多くの整形外科医がいるため、各種の委員会のメンバーを務め、英語でdiscussionをしていくのも決して容易ではありません。私が会長を務めた任期の間には、できるだけ多くの日本を代表する先生方に、役職が回ってくるように努力したつもりですが、今後のISAKOSにおける日本の活躍は、すべて若い先生方の頑張りに委ねられることとなります。是非、世界の舞台で、Asia-Pacificの代表として大きく活躍される先生方が輩出されるよう、心より期待し祈っております。



Honorary memberに選出された史野根生先生



会長講演での講演を行う筆者



全員懇親会での齋藤知行会長と教室員

## 第7回 JOSKAS開催報告

# 日常診療・研究に役立つ “実りある学会”に

事務局長 赤松 泰

横浜市立大学医学部運動器病態学 (整形外科学)

2015年6月18日(木)から20日(土)の3日間に亘り、札幌コンベンションセンターと札幌市産業振興センターで開催いたしました。各地の火山噴火情報を見ていると、多くの先生方に参加していただけるか開催前は不安になりましたが、北海道ならではの過ごしやすい天候に恵まれ、参加人数は過去最高の2,564名を記録しました。会長を中心に一年以上かけて下準備を進めて参りました。本学術集会のテーマは、「経験と思索」としました。特に若手の先生方が、診療・手術手技においてこれから多くの経験を重ね、その中から思索の上、診断・手術・研究に活かしていただきたいという想いを込めました。このテーマを念頭に、パネルディスカッション11題、シンポジウム7題・ランチョンセミナー18題を企画しました。いずれも現在注目を集めているトピックスであり、各分野の第一線の先生方に各領域の現状・問題点・最新の知見を話して頂きました。応募演題数も過去最高の1,143演題あり、口演145セッション、ポスター48セッションを組み、13会場で口演、1会場でポスター発表が行われました。若い先生方・年輩の先生方とも革新的なアイデア、手術手技を提示していただきました。変形性膝関節症・膝関節骨壊死に対して施行する高位脛骨骨切り術は当教室を代表する術式の1つですが、その演題数も非常に多く、3日間1会場を通して発表が行われ、今後も増加・発展していく術式であることを再認識いたしました。どの会場でも、非常に活発で熱い議論が行われていて、ご参加いただいた先生方にとって、日常診療・研究に役立つ、実りある学会であったと感じました。これらは教室員をはじめ、JOSKAS理事と評議員の先生方、各セッションの座長と演者の先生方、参加していただいたすべてのJOSKAS会員の先生方、各企業、運営会社、全ての協力のもとでの成果であり、皆様に御礼申し上げます。

閉会式での齋藤知行会長



## 2015年度JOSKAS学会賞

～受賞者のことば～

### 関節鏡賞

福岡大学病院 整形外科学教室 三宅 智

## 「外傷性肩関節前方不安定症における 関節包断裂の術前MR関節造影斜位矢状断像の特徴」

このたび、第7回JOSKAS総会にて「外傷性肩関節前方不安定症における関節包断裂の術前MR関節造影斜位矢状断像の特徴」という論文でJOSKAS関節鏡賞を受賞させていただきました。外傷性肩関節前方不安定症の原因となる関節包実質部断裂は、その修復に手技的熟練を要するため術前に正確な診断をすることが重要であります。本研究ではこれまであまり注目されてこなかったMR関節造影斜位矢状断像における関節包形状の特徴から術前診断に有用であることが分かりました。この研究を始めるきっかけは、直接ご指導いただいております伊崎輝昌准教授が関節包実質部断裂の手術直後にMR関節造影の斜位矢状断像を眺めておられた際にこの特徴に気づかれたことでした。日々の診療の中で何気なく見過ごしている所見を改めて注意深く診ていくことが重要であると再認識することができました。また今回の後ろ向き研究は福岡大学医学部整形外科学教室の肩グループを中心とした先輩方の長年にわたるデータの蓄積と努力なくしては達成できませんでした。先輩方には心から感謝申し上げます。最後に、内藤正俊主任教授、柴田陽三教授、伊崎輝昌准教授をはじめ共著者の先生方および関係者の方々にこの場をお借りして深謝致します。

### 膝賞

弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座 佐々木 英嗣

## 「血清ヒアルロン酸濃度と 5年後の変形性膝関節症の進行に関する疫学研究」

2015年度のJOSKASにおきまして、栄誉ある膝賞に選出いただき、大変光栄に存じます。この場をお借りしまして、受賞の報告と研究内容の紹介をさせていただきます。本論文名は「血清ヒアルロン酸濃度と5年後の変形性膝関節症の進行に関する疫学研究」です。当科ではこれまで、地域住民健診参加者を対象に、一般住民における変形性膝関節症(膝OA)の疫学調査を行ってきました。通常X線画像で行われる膝OAの診断に、関節内における滑膜炎を反映するbiomarkerである血清ヒアルロン酸濃度での評価を行っていることが当科の研究の特徴となります。過去には横断調査から血清ヒアルロン酸濃度がX線画像の重症度と相関することを報告しておりますが、本研究では5年間の追跡調査から、血清ヒアルロン酸濃度と膝OAの正の相関関係を示すことができました。他因子の影響を受けて緩徐に進行する膝OAの中でも、より関節裂隙狭小化の進行が速い高リスク群を抽出できる可能性が示されました。さらなる縦断的解析は必要と考えますが、本結果が早期膝OA検出の可能性を高め、早期介入による膝OA進行予防の一助となれば幸いですと考えております。本研究を行うに当たりまして、研究デザインの考え方や論文作成の基本から詳細にわたりご指導いただきました石橋恭之教授、中路重之教授をはじめ、大規模調査に長年にわたりご協力いただきました皆様にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。また、今後も臨床での疑問に向かい合い、さまざまな角度から解決に向けて取り組んでいけるよう努力していく所存ですので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

### スポーツ賞

東芝病院 スポーツ整形外科 田中 哲平

## 「ラグビートップリーグ選手のハムストリング損傷に対する 高気圧酸素療法の治療経験」

このたびは札幌で開催されました第7回JOSKAS総会にて投稿論文「ラグビートップリーグ選手のハムストリング損傷に対する高気圧酸素療法の治療経験」がJOSKAS学会賞(スポーツ賞)をいただきましたことを誠に光栄に存じます。東芝病院には2005年より高気圧酸素治療装置が導入され、東芝強化スポーツの野球・バスケットボール・ラグビーの選手をはじめとして沢山の患者が治療を受けています。本受賞研究は高気圧酸素療法によってスポーツ現場への早期復帰の可能性を示唆する研究であり、ラグビー選手が受傷してから、ジョギングなどの運動からタックルなどハードコンタクトを伴う運動、そして試合出場まで段階的に復帰していく期間を調査したものです。今後もしスポーツ外傷からの早期復帰に少しでも貢献できますよう、研鑽を重ねていく所存です。最後になりますが研究・論文執筆に際しご指導賜りました東芝病院スポーツ整形外科増島篤部長、武田秀樹医長をはじめ共著者の先生方および高気圧酸素治療部・リハビリテーション部スタッフ一同、その他関係者の皆様、越智光夫理事長、齋藤知行会長をはじめ本研究を評価していただいた選考委員の先生方にこの場をお借りして深謝いたします。

## 2014年に多くの英語論文を投稿・掲載された先生方を第7回大会にて表彰しました。



松崎時夫 先生(代理:黒田良祐 先生)

塚田幸行 先生

中村伸一郎 先生

下村和範 先生

# JOSKAS Outstanding Young Investigator Award

## 2014年にインパクトファクターのある英文誌に 2編以上掲載された17名の先生方とその論文

### 👑 松崎時夫 (神戸大学医学部附属病院)

- Intra-articular administration of gelatin hydrogels incorporating rapamycin-micelles reduces the development of experimental osteoarthritis in a murine model. *Biomaterials*. 2014 Dec;35(37):9904-11.
- Disruption of Sirt1 in chondrocytes causes accelerated progression of osteoarthritis under mechanical stress and during aging in mice. *Ann Rheum Dis*. 2014 Jul;73(7):1397-404.s
- Tibial internal rotation is affected by lateral laxity in cruciate-retaining total knee arthroplasty: an intraoperative kinematic study using a navigation system and offset-type tensor. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc*. 2014 Mar;22(3):615-20.

### 👑 塚田幸行 (北水会記念病院整形外科)

- Postoperative epidural analgesia compared with intraoperative periarticular injection for pain control following total knee arthroplasty under spinal anesthesia: a randomized controlled trial. *J Bone Joint Surg Am*. 2014 Sep 3;96(17):1433-8.
- Anatomic variations of the lateral intercondylar ridge: relationship to the anterior margin of the anterior cruciate ligament. *Am J Sports Med*. 2014 May;42(5):1110-7.

### 👑 中村伸一郎 (京都大学 整形外科)

- In vivo femoro-tibial kinematic analysis of a tri-condylar total knee prosthesis. *Clin Biomech (Bristol, Avon)*. 2014 Apr;29(4):400-5.
- Are the long term results of a high-flex total knee replacement affected by the range of flexion? *Int Orthop*. 2014 Apr;38(4):761-6.
- 3D in vivo femoro-tibial kinematics of tri-condylar total knee arthroplasty during kneeling activities. *Knee*. 2014 Jan;21(1):162-7.
- Can post-cam function be replaced by addition of a third condyle in PS TKA? *J Arthroplasty*. 2014 Sep;29(9):1871-6.

### 👑 下村和範 (大阪大学大学院 医学系研究科 健康スポーツ科学講座 スポーツ医学)

- Osteochondral tissue engineering with biphasic scaffold: current strategies and techniques. *Tissue Eng Part B Rev*. 2014 Oct;20(5):468-76.
- Osteochondral repair using a scaffold-free tissue-engineered construct derived from synovial mesenchymal stem cells and a hydroxyapatite-based artificial bone. *Tissue Eng Part A*. 2014 Sep;20(17-18):2291-304.
- Cyclic compressive loading on 3D tissue of human synovial fibroblasts upregulates prostaglandin E2 via COX-2 production without IL-1 $\beta$  and TNF- $\alpha$ . *Bone Joint Res*. 2014 Sep;3(9):280-8.

### ● 八田卓久 (東北大学整形外科)

- In vivo measurement of rotator cuff tendon strain with ultrasound elastography: an investigation using a porcine model. *J Ultrasound Med*. 2014 Sep;33(9):1641-6.
- Oxygen tension affects lubricin expression in chondrocytes. *Tissue Eng Part A*. 2014 Oct;20(19-20):2720-7.

### ● 鎮西伸顕 (神戸大学大学院)

- Tibial Tubercle Osteotomy with Screw Fixation for Total Knee Arthroplasty. *Orthopedics*. 2014 Apr;37(4):e367-73.
- Satisfactory results at 8 years mean follow-up after ADVANCE® medial-pivot total knee arthroplasty. *Knee*. 2014 Mar;21(2):387-90.
- Evaluation of patellofemoral joint in ADVANCE Medial-pivot total knee arthroplasty. *Int Orthop*. 2014 Mar;38(3):509-15.

### ● 岡真也 (神戸海星病院)

- The influence of the tibial slope on the intra-operative soft tissue balance in cruciate-retaining and posterior-stabilized total knee arthroplasty. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc*. 2014 Aug;22(8):1812-8.
- Simulation of the optimal femoral insertion site in medial patellofemoral ligament reconstruction. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc*. 2014 Oct;22(10):2364-71.

### ● 長井寛斗 (神戸大学大学院)

- Soft tissue balance changes depending on joint distraction force in total knee arthroplasty. *J Arthroplasty*. 2014 Mar;29(3):520-4.
- Early-onset severe neuromatous pain of the infrapatellar branch of the saphenous nerve after total knee arthroplasty. *AP-SMART*. July 2014 Volume 1, Issue 3, Pages 102-105.

### ● 高山孝治 (神戸大学大学院)

- Involvement of ERCC1 in the pathogenesis of osteoarthritis through the modulation of apoptosis and cellular senescence. *J Orthop Res*. 2014 Oct;32(10):1326-32.
- Local intra-articular injection of rapamycin delays articular cartilage degeneration in a murine model of osteoarthritis. *Arthritis Res Ther*. 2014 Nov 17;16(6):482.

### ● 松本知之 (神戸大学)

- Reduction of Tunnel Enlargement with Autologous Use of Ruptured Tissue in Anterior Cruciate Ligament Reconstruction: A Pilot Clinical Trial. *Arthroscopy*. 2014 Apr;30(4):468-74.
- Soft Tissue Balancing in Total Knee Arthroplasty: Cruciate-retaining versus Posterior-stabilized, and Measured Resection versus Gap Technique. *Int Orthop*. 2014 Mar;38(3):531-7.

### ● 中前敦雄 (広島大学大学院整形外科)

- Far anteromedial portal technique for posterolateral femoral tunnel drilling in anatomic double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction: a cadaveric study. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc*. 2014 Jan;22(1):181-7.
- Clinical outcomes of second-look arthroscopic evaluation after anterior cruciate ligament augmentation: comparison with single- and double-bundle reconstruction. *Bone Joint J*. 2014 Oct;96-B(10):1325-32.

### ● 熊橋伸之 (島根大学 整形外科)

- Effectiveness and limitations of reconstruction of the medial patellofemoral ligament using a titanium interference screw in single patellar and femoral bone tunnels AP-SMART. *January 2014Volume 1, Issue 1, Pages 31-37.*
- Fixation of osteochondral fractures of the patella using autologous bone screws when reconstructing the medial patellofemoral ligament after recurrent patellar dislocation: report of two cases. *J Orthop Sci*. 2014 Mar;19(2):359-64.
- Biomechanical comparison of the strength of adhesion of polymethylmethacrylate cement to zirconia ceramic and cobalt-chromium alloy components in a total knee arthroplasty. *J Orthop Sci*. 2014 Nov;19(6):940-7.

### ● 栗山新一 (京都大学 整形外科)

- Is a "sulcus cut" technique effective for determining the level of distal femoral resection in total knee arthroplasty? *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc*. 2014 Dec;22(12):3060-6.
- Tibial rotational alignment was significantly improved by use of a CT-navigated control device in total knee arthroplasty. *J Arthroplasty*. 2014 Dec;29(12):2352-6.
- Malrotated tibial component increases medial collateral ligament tension in total knee arthroplasty. *J Orthop Res*. 2014 Dec;32(12):1658-66.

### ● 望月友晴 (新潟大学 整形外科)

- The clinical epicondylar axis is not the functional flexion axis of the human knee. *J Orthop Sci*. 2014 May;19(3):451-6.
- Kinematics of the knee after unicompartmental arthroplasty is not the same as normal and is similar to the kinematics of the knee with osteoarthritis. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc*. 2014 Aug;22(8):1911-7.

### ● 太田進 (星城大学)

- Acute influence of restricted ankle dorsiflexion angle on knee joint mechanics during gait. *Knee*. 2014 Jun;21(3):669-75.
- Application of pole walking to day service centers for use by community-dwelling frail elderly people *International Journal of Gerontology* Volume 8, Issue 1, March 2014, Pages 6-11.

### ● 古賀英之 (東京医科歯科大学大学院運動器外科学)

- Effect of Notchplasty in Anatomic Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction. *Am J Sports Med*. 2014 Jun 2;42(8):1813-1821.
- Effect of femoral tunnel position on graft tension curves and knee stability in anatomic double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc*. 2014 Nov;22(11):2811-20.

### ● 武富修治 (東京大学 整形外科)

- Eccentric Femoral Tunnel Widening in Anatomic Anterior Cruciate Ligament Reconstruction. *Arthroscopy*. 2014;30(6):701-709.
- Clinical Outcome of Anatomic Double-bundle ACL reconstruction and 3D CT Model-based Validation of Femoral Socket Aperture Position. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc*. 2014;22(9):2194-2201.
- Clinical Features and Injury Patterns of Medial Collateral Ligament Tibial Side Avulsions: "Wave sign" on Magnetic Resonance Imaging is essential for Diagnosis. *The Knee*. 2014;21:1151-1155.
- Remnant-Preserving Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Using a Three-Dimensional Fluoroscopic Navigation System. *Knee Surg Relat Res*. 2014;26(3):168-176.



APKASSのboard meetingでの集合写真

## 2015 Summit of Asia-Pacific Knee, Arthroscopy and Sports Medicine Society (APKASS Summit 2015)に参加して

愛知医科大学医学部整形外科 出家 正隆

APKASS Summit 2015が、2015年5月8-9日に台湾・台北市のHoward Civil Service international HouseでChih-Hwa Chen教授を会長として開催され、アジア太平洋諸国はもとより欧米からも参加され25か国300名以上と盛会でした。また、日本からもJOSKASの理事・評議員の先生など多くの方が参集されました。プログラムは、Takagi-Watanabe award lecture2講演、Special lectureが9講演、Lunch time seminarが6講演、Symposium lecture48題と盛りだくさんで、一般演題も142題ありました。

APKASSは昨年、広島大学の越智光夫教授が奈良市で開催されたのが第1回大会で、2年に1回の開催予定です。今回はAPKASS Summitという学会名での開催でしたが、内容・参加者数から見てSummitではなく総会といった感でした。APKASSでは、関節鏡がアジア・日本で開発されたことを記念して、初代理事長・会長の越智教授により、開発者である高木憲次教授（日本医科大学）、渡辺正毅（東京通信病院）先生のお名前を冠したTakagi-Watanabe Awardが創設されています。本年は、越智教授とJohn Bartlett教授（Australia, Western Health）が受賞され記念講演されました。

President Banquetは台北101の空中レストランで開催され、素晴らしい夜景と美味しい台湾料理を堪能し、またGala partyは、市内中心にあるHoward Plaza Hotelで開催され、懇親を深めました。次回は、2016年6月9日～11日に香港で開催される予定です。アジアのなかで、日本の力を示すためにも多くのJOSKAS会員が参加されることを希望します。



(Gala Partyでの写真) 左から前会長の越智教授、David Parker先生(Australia Sydney)、次代会長のShi-Yi Chen教授(中国 上海)、今回の会長 Chih-Hwa Chen教授、Myung-Chul Lee教授(韓国)、Kai-Ming Chan教授(香港)

## JOSKAS委員会紹介 広報委員会

JOSKAS広報委員会は、2011年6月に札幌での第3回JOSKASで誕生しました。当初、米田 稔委員長のもと私を含め5名の委員で発足しましたが、その任務の重大性のためか(!?)、2015年より2名が追加され、現在では米田担当理事のもと、個性豊かな7名の委員で構成されています。いずれの委員も「広報」の意味するところの「情報発信」を担うに相応しい面々だと自負しています。

発足当初の主たるミッションは、JOSKASアピールのための配布用小冊子の作成でした。ただ、これまでに既刊されている日整会や各分科会からの小冊子とは「別の、もしくはそれ以上のより実践的かつ解りやすいもの」が要求されました。そのため、形式、テーマの決め方、発行時期など、これまでの概念にとらわれない

## JOSKAS広報委員会委員長 熊井 司 奈良県立医科大学スポーツ医学講座

発案のもと、現行の「運動器疾患とスポーツ外傷・障害」シリーズの刊行に至っています。これまで各委員の専門分野を生かした5つのユニークなテーマ(1. 膝蓋腱炎 2. 肩腱板断裂 3. ランニング障害 前編 4. ランニング障害 後編 5. 変形性膝関節症とスポーツ)についての小冊子が完成し、いずれも好評を得ています。現在、次なるテーマについて検案中です。

広報委員会として、現在では小冊子の作成に加えJOSKASホームページのデザインや構成、改定など管理業務も行っております。また学術集会に併催される市民公開講座に関する議案についての検討も行っています。2015年度には委員会を3回開催し(いずれも全員参加)、これらの任務を円滑に遂行している状況です。今後も、広報委員会による社会への情報発信にご期待下さい!

## Something New

# 逸脱を伴う膝半月板損傷の滑膜幹細胞による治癒促進

東京医科歯科大学 再生医療研究センター 関矢 一郎

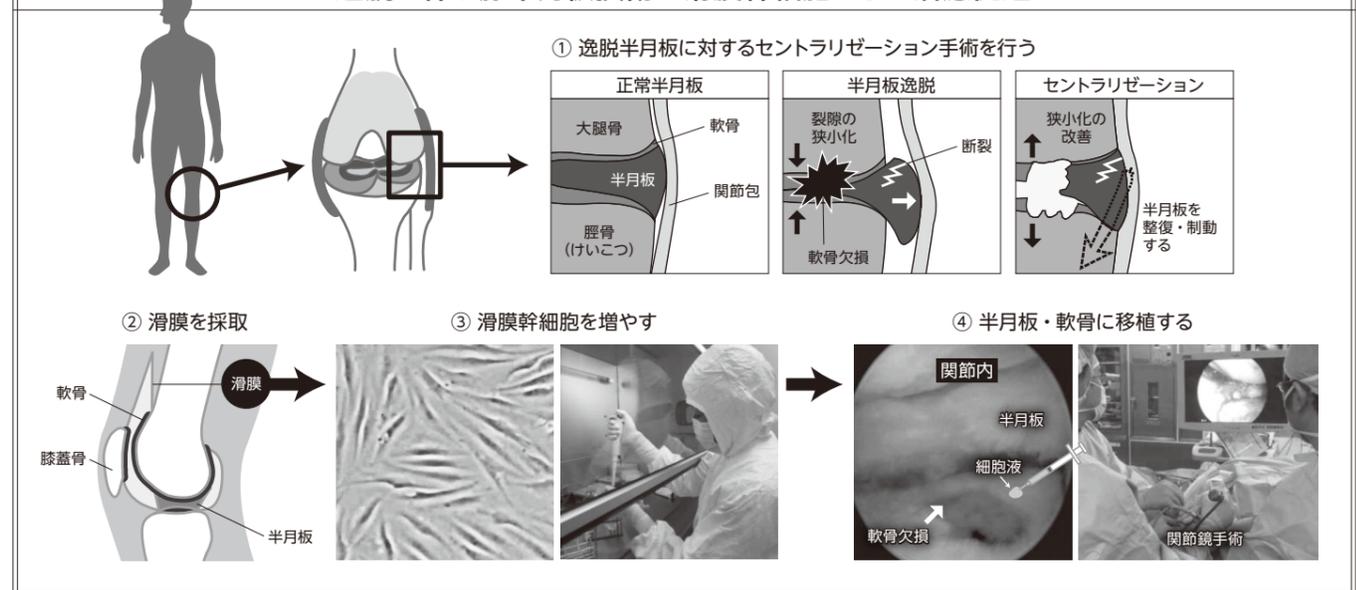
私たちは、滑膜由来の間葉系幹細胞(滑膜幹細胞)は自己血清でよく増殖し、軟骨に分化する能力が高く、滑膜幹細胞の浮遊液を軟骨欠損部に10分間静置すると軟骨が再生することを基礎研究で明らかにしています。2008年には軟骨欠損に対して滑膜幹細胞を鏡視下で移植する臨床研究を開始し、安全性を確認しました。同時に、多数の例で軟骨欠損部が再生し、症状が改善したことを2015年に報告しました(Sekiya et al. Clin Orthop Relat Res. 2015)。

また、半月板を切除した動物モデルに滑膜幹細胞を移植すると半月板再生が促進されることを、これまで示しています。さらに半月板の無血行野に損傷を作成して縫合後、滑膜幹細胞浮遊液を10分間静置すると、滑膜幹細胞は半月板縫合部と周囲の滑膜に生着し、周囲の滑膜組織の誘導を促し、半月板の治癒を促進することを報告しました(Nakagawa et al. Osteoarthritis Cartilage. 2015)。この前臨床研究に基づいて、切除術の適応になる変性の強い半月板損傷に対して縫合術を施行後、滑膜幹細胞を移植する

臨床研究を2014年に開始し、安全性を確認し、有効性を現在解析しています。

若年者では半月板部分切除後に、中高齢者では加齢により、半月板が逸脱することがあります。半月板の逸脱は、半月板の機能低下をもたらす、隣接する関節軟骨の摩耗を加速する重要な病態です。当院では、脛骨に固定したアンカーで逸脱した半月板を修復・制動する鏡視下セントラリゼーション手術を2009年から実施しています(Koga et al. Arthrosc Tech. 2012)。2015年8月から逸脱を伴う膝半月板損傷の患者さんに、セントラリゼーションにより半月板機能を再獲得して、修復した半月板の周囲や関節軟骨欠損部に滑膜幹細胞を移植し、半月板・軟骨の再生を期待する再生医療を開始しました。これは2014年11月に施行された再生医療等安全性確保法に基づき、体性幹細胞を用いた第2種再生医療等提供計画のなかで初めて受理されたものです。本研究により、変形性膝関節症の再生医療への発展が期待できます。

### 逸脱を伴う膝半月板損傷の滑膜幹細胞による治癒促進



### 編集後記



今夏は台風で始まり台風で終わりましたね。気温にもメリハリがありました。学会員の皆様もJOA、APKASS、ISAKOS、JOSKASと一連の学会に参加され、学生の手術の需要が多い夏休みが終わり、一息ついて秋の陣といったところでしょうか。

JOAやJOSKASでは質の高い講演が多く、特にJOSKASでは聞きたい演題が多く、体が2つほしいと思える内容でした。まして国際学会では、世界の潮流を把握することができ、刺激の多い内容ばかりです。学会員もどンドン外に打って出る気概が必要です。

今回は新しい企画として、JOSKAS委員会の現状とSomething Newというコーナーを設けてみました。これらの企画はニュースレター委員からの提言で生まれたものです。写真はJOAの際の、委員会での集合写真です。今後も皆様に楽しんで読んでもらえるような内容を提供していきます。

ニュースレター委員会 委員長 高橋 成夫(三菱名古屋病院)